

国語科の学習 《 2 年 》

1 目標（学習のねらい・教科の特徴）

- 社会生活に必要な国語の知識を身に付けることができるようにする。
- 人との関わりの中で、自分の考えを広げることができるようにする。
- 言葉の価値や言語文化を認識しようとしている。

2 教科書・副教材・持ち物

副教材名	文法ワーク・漢字ワーク・ワーク
授業の持ち物	教科書・ノート・漢字ワーク・ワーク・便覧 ※文法ワークは指示があったときのみ。

3 年間の学習項目（予定）

前期	後期
<ul style="list-style-type: none">・ 詩歌「虹の足」・ 小説「タオル」「夏の葬列」・ 説明文「日本の花火の楽しみ」「水の山富士山」・ 古典「敦盛の最期」「随筆の味わい」・ 文法「活用のある自立語」 など	<ul style="list-style-type: none">・ 古典「孔子の言葉」・ 説明文「紙の建築」「ガイアの知性」・ 詩歌「短歌十首」・ 小説「走れメロス」・ 文法「活用のない自立語」 など

4 評価の観点と主な評価方法

評価の観点	主な評価物
言語に関して十分な知識を持ち、応用して活用することができる。 (知識・技能)	<ul style="list-style-type: none">・ 定期テスト（漢字、語句、文法、古典等）・ 日常の漢字テスト・ 課題の内容（ワークシート、ノート）・ 授業時の観察（発言内容等）・ 単元まとめ
「論理的に考える力」「想像し、共感する力」「社会生活において伝え合う力」を高め、自分の考えを深めることができる。 (思考・判断・表現)	<ul style="list-style-type: none">・ 定期テスト（文章読解、作文等）・ 課題の内容（ワークシート、ノート）・ 制作物（作文等）・ 授業時の観察（発言内容等）・ 単元まとめ
進んで言葉についての理解を深め、言葉を通して思いや考えを広げようとしている。 (主体的に学習に取り組む態度)	<ul style="list-style-type: none">・ ノート、感想文、振り返り等・ 授業時の観察（発言内容等）・ 単元まとめ

5 先生からのアドバイス

(1) 授業でのポイント

- ①ノートは詰めすぎず、余裕をもって使う。
- ②ノートの余白に大事な説明、気がついたことなどを書く。
- ③課題に対して必ず自分の考えをもち、積極的な挙手発言を心がける。
- ④提出物は**必ず**期限を守る。

(2) 家庭学習のポイント

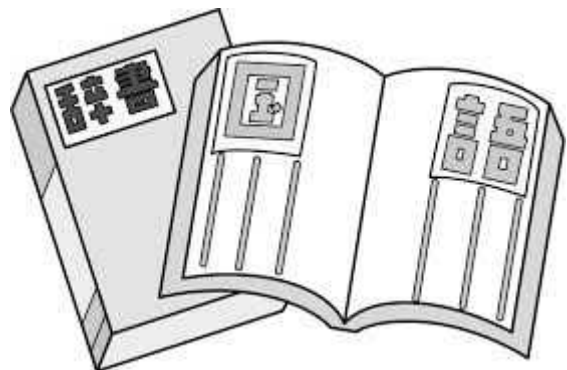
- ①漢字の書き取りを繰り返し行い、小テストで高得点を目指す。また、随時復習を行う。
漢字を使った熟語を作る。熟語を使った短文を作る。言葉の意味を調べる。
- ②音読、朗読を行う。
特に古文、漢文は現代語訳と合わせて、すらすら読めるようにする。
- ③文章の内容（あらすじ、要約）や、その日に学習したことを他の人に説明する。
- ④幅広いジャンルの文章を読む。
- ⑤日々の学習の中で少しでも興味を持った事柄があれば、インターネットや資料集などで調べる。
- ⑥新聞を読む。

※新聞を読む習慣があると、読解力、文章をまとめる力（要約力）がつきます。是非毎日新聞を読むようにしましょう。時事問題は、小論文や作文を書くときの事例としても利用できます。

夏休みの自由研究として、「毎日自分の選んだ新聞記事をまとめる、感想、意見を書く」等が考えられます。

(3) テスト勉強のポイント

- ①小説ならばあらすじ、説明的文章ならば要約文を書けるようにしておく。
- ②ノート、課題プリント等から重要な問いについて、考えて自分の言葉で書けるようにしておく。
- ③出題範囲の漢字を全て書ける（読める）ようにする。
- ④文法事項を理解できるようにする。
- ⑤古典では、原文を何度も読み、歴史的仮名遣いや現代語訳を理解する。
- ⑥その他、覚えるべき事柄は繰り返し復習してしっかり覚える。



社会科の学習《2年》

1 目標(学習のねらい・教科の特徴)

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することを目指す。

2 教科書・副教材・持ち物

教科書名	新しい地理(東京書籍) 未来をひらく歴史(教育出版)
副教材名	地理の完全学習2(正進社) 歴史の完全学習2・3(正進社) 学び考える歴史(浜島書店) グラフィックワイド地理Ⅰ・Ⅱ(とうほう)
授業の持ち物	教科書 資料集 地図帳 ノート(A4サイズが望ましい) ワーク はさみ のり

3 年間の学習項目

地 理 分 野	歴 史 分 野
第2章 世界から見た日本の姿 <ul style="list-style-type: none"> ・地形から見た日本の特色 ・気候から見た日本の特色 ・自然災害と防災・減災への取り組み ・世界から見た日本の人口 ・世界から見た日本の資源 ・世界と日本の結び付き 第3章 日本の諸地域 <ul style="list-style-type: none"> ・九州地方 ・中国・四国地方 ・近畿地方 ・中部地方 ・関東地方 ・東北地方 ・北海道地方 	第4章 近世の日本と世界 <ul style="list-style-type: none"> ・中世ヨーロッパとイスラム世界 ・ルネサンスと宗教改革 ・ヨーロッパ人の大航海 ・鉄砲とキリスト教の伝来 ・天下統一への歩み ・幕藩体制の確立と鎖国 ・経済の成長と幕政の改革 第5章 近代の幕開け <ul style="list-style-type: none"> ・近代世界の確立とアジア ・開国と幕府政治の終わり 第6章 近代の日本と世界 <ul style="list-style-type: none"> ・明治維新と立憲国家への歩み ・激動する東アジアと日清・日露戦争 ・近代の産業と文化の発展 第7章 二度の世界大戦と日本 <ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦と民族独立の動き ・大正デモクラシー

4 評価の観点と主な評価方法

評価の観点	主な評価物
知識・技能	・定期テスト ・レポート ・小テスト（単元テスト） ・振り返りシート
思考・判断・表現	・定期テスト ・レポート（振り返りシート） ・小テスト（単元テスト）
主体的に学習に取り組む態度	・レポート ・振り返りシート ・ノート

5 先生からのアドバイス

「めざせ！社会科のプロフェッショナル！！」

(1) 「確かな学力」を身につけるには…

- 学習課題を理解し、課題に対して前向きに取り組もう。
- 疑問に思うことや分からないことを明らかにし、解決する努力をしよう。
- 学習課題に対して、たくさんの友人の意見を踏まえて考える力をつけよう。

(2) 「家庭学習」を充実させるためには…

- その日に学習したことを、ワークなどで定期的に復習しよう。
- 夏休みや冬休みなどは、学習の振り返りをする絶好のチャンスです。弱点の補強や長所を伸ばすことに有効に活用しよう。

(3) 定期テストを頑張るためには…

- 範囲は2週間前に発表します。テスト勉強のポイントをしっかりと押さえて、計画的にテスト勉強に臨もう。
- 定期テスト前後にノートやワークの点検を行います。日頃からコツコツとまとめたり、取り組んだりしておくことが重要です。

(4) 評価について

○知識・技能の評価

- ・授業で扱った内容が理解できているか。
- ・単元別テスト、定期テストにおいて知識を習得できているか。
- ・授業で扱った内容を理解してレポート等を記述しているか。

○思考・判断・表現の評価

- ・授業で扱った内容を説明できているか。
- ・授業で扱った事柄をつなげてわかりやすくレポートや定期テスト等で記述をしているか。
- ・知識を活かして適切な表現を授業で行えているか。

○主体的に学習に取り組む態度

- ・学習した内容を自分に関わることとしてレポート等に記述しているか。
- ・適切に自分の学習状況を振り返っているか。
- ・自分の理解度や学習状況に応じて粘り強く学習に取り組んでいるか。

※定期テストだけでなく、授業での評価物（単元テストやレポート、発表内容など）、家庭学習の取り組みを総合的に評価します。

数学科の学習《 2年 》

1 目標(学習のねらい・教科の特徴)

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。数量や図形などについての基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得し、これらを活用して問題を解決するために必要な数学的な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、数学のよさを知り、数学と実社会との関連についての理解を深め、数学を主体的に生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を評価・改善しようとしたりするなど、数学的に考える資質・能力を育成することを目指すこととする。

2 教科書・副教材・持ち物

教科書	未来へひろがる数学2 (啓林館)
副教材	e-library
持ち物	ノート・ファイル・コンパス・三角定規一組・分度器

3 年間の学習項目

前 期	後 期
1章 式の計算	4章 図形の調べ方
2章 連立方程式	5章 図形の性質と証明
3章 一次関数	6章 場合の数と確率
	7章 箱ひげ図とデータの活用

4 評価の観点と主な評価方法

評 価 の 観 点	主 な 評 価 物
数量や図形などについて理解し、知識を身につけ、正しく計算、作図ができ、グラフをかくことができる。	・定期テスト ・単元テスト ・小テスト など
見通しを持ち、筋道をたてて考え、表現することができる。	・定期テスト ・単元テスト ・小テスト ・レポート など
自らの学習を調整しようとし、主体的に粘り強く学習に取り組むことができる。	・レポート等の授業で取り組んだもの ・授業での発表の内容 ・自主的に学習したもの など

5 先生からのアドバイス

「数学は科学の女王である」「自然という書物は数学の言語で書かれている。」

前者はガウスという大数学者、後者は皆さんもご存じのガリレオの言葉です。最近では、せまい意味だけではなくあらゆる学問のものが数学につながっているといっても言い過ぎではありません。急速に進歩発展しコンピューター社会化する現代の社会では、皆さんが将来どんな方面に進んでいくにしても、数学をしっかり身に付けておくことが必要です。

もちろん、数学で使う用語の決まりや定理、公式などは覚えていなくてはなりません。これらを、ただ知識として覚えているだけでなく、さらに、いろいろな問題を解く材料として活用できることが大切です。また、計算問題は繰り返しやって、コツをつかみましょう。応用問題もいろいろなパターンの問題に慣れることが大切です。解法に気がついたときの感動が、次の問題への興味や関心、意欲につながっていきます。

<<学習の進め方>>

- (1) 教科書やノートはもちろん、図形であれば、コンパスや三角定規など用具の準備を忘れないようにしましょう。
- (2) 自分がこれから考える問題は何か、問題をしっかりと読んで、何が解っていて何を答えるのかをしっかりとつかみましょう。
- (3) 自分なりの考えで、途中までも良いからやってみましょう。
- (4) 自分の解き方を発表したりして友達のもの比べてみましょう。もしも、やり方が違っていたら、説明してあげたり、教えてもらったりしましょう。
- (5) 学習して解ったことや用語の意味、定理や公式など大切なことは、きちんとまとめておきましょう。
- (6) その日学習したことは、その日のうちにもう一度やってみたり、e-libraryで類題を解いてみましょう。

<<家庭学習のアドバイス>>

【自分の力にあった問題を解くことが大切です。】

- ・十分力がついたと感じたら応用問題を中心に学習を進めましょう。
- ・計算力が不足な人は計算問題をまずできるようにしましょう。
- ・計算方法の理解が不十分な人はそこから復習しましょう。
- ・力があるのに簡単な計算問題をやったり、また逆に計算力が身に付いていないのに応用問題に取り組んでも効果は上がりません。

※スラスラと解けなかった問題については後日改めて挑戦してください。

理科の学習《2年》

1. 目標(学習のねらい・教科の特徴)

- (1) 観察・実験などに関する基本的な技能を身につける。
- (2) 観察・実験を通して、科学的に調べる力を身につける。
- (3) 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に考えようとする態度を身につける。

2. 教科書・副教材・持ち物

教科書名	未来へひろがるサイエンス2 (啓林館)
副教材名	理科の完全学習 2
授業の持ち物	・教科書 ・ファイル(ノート) ・保護メガネ ・Chromebook

3. 年間の学習項目

前 期	後 期
<p>[物質] 化学変化と原子・分子</p> <p>1章 物質の成り立ち</p> <p>2章 物質の表し方</p> <p>3章 さまざまな化学変化</p> <p>4章 化学変化と物質の質量</p> <p>[生命] 生物の体のつくりとはたらき</p> <p>1章 生物の体をつくるもの</p> <p>2章 植物の体のつくりとはたらき</p> <p>3章 動物の体のつくりとはたらき</p> <p>4章 動物の行動のしくみ</p>	<p>[エネルギー] 電流とその利用</p> <p>1章 電流の性質</p> <p>2章 電流の正体</p> <p>3章 電流と磁界</p> <p>[地球] 地球の大気と天気の変化</p> <p>1章 地球をとり巻く大気のように</p> <p>2章 空気中の水の変化</p> <p>3章 天気の変化と大気の動き</p> <p>4章 大気の動きと日本の四季</p>

4. 評価の観点と主な評価方法

評価の観点	主な評価物
知識及び技能 (科学的に探求するために必要な観察, 実験などに関する基本操作や記録などの基本的技能を身に付けている。)	・定期テスト ・観察, 実験の器具の扱い方 ・小テスト
思考・判断・表現 (事物・現象から問題を見だし, 見通しをもって観察, 実験などを行い, 得られた結果を分析して解釈し, 表現するなど, 科学的に探求している。)	・定期テスト ・レポート(ワークシート)
主体的に取り組む態度 (事物・現象に進んで関わり, 見通しをもって振り返ったりするなど, 科学的に探求しようとしている。)	・定期テスト(大問1 基礎的な問題) ・単元シート(ふりかえりシート) ・提出物の提出状況

ファイルやノートは, 年4回程度提出・点検をします。
(提出日時等は授業中に説明します。)

5. 先生からのアドバイス

●教科書について

…この教科書は内容が盛りだくさんであり、資料集としての役割も果たしています。その分、発展的な内容も混ざっているので、「基本」を授業でしっかり確認しましょう。

●授業について

…何といっても授業を大切にすることが一番です。

- (1) 3分前には着席し、落ち着いて授業が始められるようにしましょう。
- (2) 今日の目的(ねらい)は何か、意識をもって授業に取り組みましょう。
- (3) 話をしっかりと聞き、注目して見るのが大切です。
- (4) 互いの意見や考えを積極的に交換し、学び合うことで理解を深めましょう。
- (5) 班で協力し、進んで観察や実験に参加しましょう。
- (6) レポートや単元シートは丁寧に記録し、しっかりと考えて作成しましょう。
- (7) 内容が理解できたかを確認するために、なるべく早くワークに取り組みましょう。
- (8) 疑問点や興味を持ったことは進んで質問しましょう。

●勉強の仕方

- (1) 日常の生活では？

- ・テレビ(科学番組・特集・ニュースなど)に出てくる科学の話題に触れましょう。
- ・季節の花、野菜、果物、身の回りの動物に目を向けましょう。
- ・庭や公園、通学路に生えている植物や、日常の天気や星など身近な自然に目を向けましょう。



学校で教わったこと以外に興味・関心を持つことができると、主体的に学習に取り組もうとする姿勢が身につくと思います。場合によっては、思いもよらないところに自由研究のテーマが転がっているかも…！？

- (2) 授業のポイントは？

- ・その日の授業の内容をワークシート、教科書、e-ライブラリ(ワーク)などで整理し、授業内容に付け加えたりする。
(ただし、教科書を読むだけで分かったつもりになってはだめです。書きながら、やるのが大切です。これなら1日10分程度でできます。)
- ・e-ライブラリ(ワーク)を利用して、内容が理解できたかを確認しましょう。
- ・時間に余裕があれば、自分で買った問題集などで力試しをしてみましょう。
- ・分からないことは先生に質問しましょう。

- (3) 理科の基本事項とは？

- ・身近な物(学校、学区、トピックスなど)に興味を持っていること。
- ・教科書の太字が正しく書けること。
- ・教科書の太字の説明を自分の言葉でできること。
- ・実験器具の名前や正しい操作方法を理解し、自分でできること。

- (4) テスト前の学習方法は？

- ・毎回の授業を大切に、ファイルをしっかりと見直しましょう。
- ・遅くとも2週間前からテスト勉強を計画的に進めましょう。
(一夜漬けでは、間に合いません！)
- ・基本事項は確実に覚えましょう。
(「光合成とは…」など自分で誰かに説明できるくらいになるといいですね。単語カードも効果的です！)
- ・計算問題は繰り返し練習しましょう。
- ・e-ライブラリ(ワーク)は少なくとも2回は繰り返してやりましょう。
- ・余裕があれば、自分で買った参考書や問題集に目を通すとよいでしょう

音楽 科の学習《2年》 ☆

1 目標(学習のねらい・教科の特徴)

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して音楽的な見方・考え方を働かせ生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質能力を身につける。

2 教科書・副教材・持ち物

教科書	教科書2・3上・下・器楽
持ち物	〈常時〉教科書(3冊)・ノート・のり・鍵盤ハーモニカ・クロームブック・筆記用具
意欲	元気の歌声。明るい笑顔。豊かな表情。音楽を楽しむ気持ち

3 年間の学習項目

前 期	後 期
鑑賞：小フーガト短調 歌舞伎「勧進帳」	鑑賞：交響曲第5番「運命」 オペラ「アイダ」
創作：リズム創作	創作：歌詞や旋律をつくろう
歌唱：「夏の思い出」 「翼をください」 合唱祭「クラス自由曲」	歌唱：「荒城の月」 三送会・卒業式の式歌練習
	器楽：三味線に親しもう
年間を通して	
歌唱：校歌・トリトン 器楽：鍵盤ハーモニカ	

4 評価の観点と主な評価方法

評 価 の 観 点	主 な 評 価 方 法
知識・技能 音楽的な特徴及び構造と曲想との関わりについて表現及び鑑賞の活動を通して理解しそれを表現する技能を持っている。	・ノート・ワークシート ・学習の様子 ・実技試験
思考・判断・表現 音楽を形作っている要素を聴き取りそれらの働きが生み出す良さや面白さを感じ取りながら音楽表現を工夫しどのように表すかについて思いや意図をもってそれを伝えることができる。	・ノート・ワークシート ・学習の様子 ・発表や発言 ・振り返りシート
主体的に学習取り組む態度 音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現活動・鑑賞に取り組もうとしている。	・ノート・ワークシート ・学習の様子 ・発表や発言 ・振り返りシート

5 先生からのアドバイス

歌唱

日本の歌として「夏の思い出」「荒城の月」、合唱祭に向けて合唱の曲などを歌います。心に残るよい歌をたくさん歌っていきましょう。元気な明るい歌声を出すためにいつも笑顔で学習に取り組みましょう。

器楽

鍵盤ハーモニカなどを使って年間を通し様々な楽曲を演奏していきましょう。三味線の奏法や、楽曲の様式を学習し、簡単な旋律を弾いてみましょう。昨年度学習したギターとの相違点について考えましょう。

創作

音符の読み方を復習した上でリズムの創作をします。後期は言葉の抑揚を考え、歌詞に合わせた旋律づくりを行います。

鑑賞

西洋のクラシックや日本の伝統芸能音楽、ポピュラー音楽等を聴きます。

2年生は作曲の形式についても鑑賞しながら勉強していきます。聴き方のポイントをつかみ、楽曲の構成について理解を深めましょう。いろいろな音楽に興味を持って楽しく聴き、音楽のよさを味わうことが大切です。

美術科の学習《 2 年》

1 目標(学習のねらい・教科の特徴)

- | |
|--|
| <p>(1) 主体的に美術の活動に取り組み美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を高める。</p> <p>(2) 対象を深く見詰め感じ取る力や想像力を一層高め、独創的・総合的な見方や考え方を培い、豊かに発想し構想する能力や自分の表現方法を創意工夫し、創造的に表現する能力を伸ばす。</p> <p>(3) 自然の造形、美術作品や文化遺産などについての理解や見方を深め、心豊かに生きることと美術とのかかわりに関心をもち、よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を高める。</p> |
|--|

2 教科書・持ち物

教科書	美術1、美術2・3上、美術2・3下
基本的な持ち物 (美術セット)	<ul style="list-style-type: none"> ○アクリル絵の具セット ○鉛筆 (B以上の濃さが望ましい) ○色鉛筆 (12色以上) ○油性サインペン ○絵の具用の雑巾 ○PC
課題によって必要な持ち物	作品を入れるビニール袋など。課題に入る前の連絡を聞いて用意してください。

3 年間の学習項目

前 期	後 期
<ul style="list-style-type: none"> ○鑑賞 ○ポスターデザイン 	<ul style="list-style-type: none"> ○鑑賞 ○和菓子のデザイン ○光の工芸

4 評価の観点と主な評価方法

評 価 の 観 点	主 な 評 価 物
(1) 知識・技能 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などを捉えることを理解している。	<ul style="list-style-type: none"> ・作品などの提出物 ・授業への準備 ・鑑賞
(2) 思考・判断・表現 造形的なよさや美しさを感じ取り、創造的な工夫などについて見方や感じ方を深めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・アイデアスケッチ ・作品 ・鑑賞
(3) 主体的に学習に取り組む態度 主体的に制作や美術文化などの鑑賞に取り組もうとしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・作品 ・授業に取り組む態度

5 先生からのアドバイス

○知識・技能

日頃からいろいろな作品や表現の他、自然や様々な材料に関心をもって見たり、伝統や文化、社会と美術について考えてみてください。

日本の伝統文様や色を学び、その美しさを活かした作品を制作しましょう。

○思考・判断・表現

自分の想いやイメージを言葉やアイデアスケッチとして描き止め、目的や機能を考えて構想を練って、作品制作の計画を立てましょう。

作品のよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り、自分の考えを言葉や文章に表すことができるようになりましょう。そして自分ひとりの感想や気づきで終わらせず、思いや考えを説明し合うなどして、見方や感じ方を広げましょう。

○主体的に学習に取り組む態度

週1回の授業に、持ち物をしっかり準備して臨みましょう。そして取りかかりを早くし、短時間で集中して作業を進めることも大切です。提出物の未提出や、作品を未完成のままにすることが絶対に無いようにしましょう。

意図に応じて材料や用具を生かし、道具を安全に扱い、見直しをもって工夫して完成させましょう。

保健体育科の学習《2年》

1 目標(学習のねらい・教科の特徴)

運動の合理的な実践を通して、体を動かすことの楽しさを味わうことができるようにする。また、各単元におけるルールや知識、技能を身につけ、持てる力を精一杯発揮し、結果に対して公正な態度がとれるようにする。さらに運動を行うことによって自己の体力に関心を持ち、自主的・自発的に活動できるようにする。

2 教科書・副教材・持ち物

教科書	体育実技、新しい保健体育（東京書籍）
授業の持ち物	ファイル、筆記用具、3年間の保健資料ノート

3 年間の学習項目

前 期	後 期
<ul style="list-style-type: none"> ○体づくり運動・集団行動 ○新体力テスト ○器械運動（跳び箱運動） ○陸上（走り高跳び・短距離走 走り幅跳び・リレー） ○運動会に向けての練習 保健学習（傷害の防止） 	<ul style="list-style-type: none"> ○武道（剣道） ○陸上（長距離走） ○心肺蘇生法実習 ○球技（ネット型・ゴール型） 保健学習（健康な生活と疾病の予防）

4 評価の観点と主な評価方法

評 価 の 観 点	主 な 評 価 方 法	
運動や健康・安全について、具体的な方法、学び方や安全な行い方を理解し、運動の特性に応じた基本的な技能を身につけている。	学習カード 小テスト 技能テスト	授業中の取り組み方を観察評価 ・技能のポイントを伝えている ・仲間の課題やできばえを伝えている ・仲間へ助言したり、仲間の学習を援助している ・健康安全に留意して取り組んでいる等）
自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて、運動の取り組み方や運動の組み合わせ方を工夫し、考えたことを他者に伝えている。	学習カード グループ活動	
公正、協力、責任、共生などに対する意欲を持ち、健康・安全に留意して学習に積極的に取り組もうとしている。	学習カード グループ活動	

5 先生からのアドバイス

○体づくり運動・集団行動

- ・授業規律をしっかり守りましょう。
- ・自ら進んで体力を高めようと努力し、自己の体力に興味・関心を持ちましょう。
- ・姿勢に気をつけながら、相手のことを気遣う気持ちを大切にして取り組みましょう。

○陸上（ハードル・走り高跳び・走り幅跳び・長距離走）

- ・個人種目は、学習カードの記入を頑張りましょう。毎時間にめあてを持ち、自己の記録に挑戦しようとする前向きな気持ちが大切です。途中で諦めたりせず、目標記録に向けて努力できると良い。
- ・グループ活動を充実させましょう。友だちと協力して互いに高め合い、評価活動ができると良い。

○武道（剣道）

- ・慣れ親しんでいない単元になりますが、武道は武道の気持ちを学びながら、基本となる技を用いて、打ったり受けたりできるようになりましょう。
- ・積極的に評価活動ができるようにしましょう。

○器械運動（跳び箱運動）

- ・苦手意識の高い生徒が多いと思いますが、自己の能力に応じて段階的に進めていきましょう。それぞれ課題となる技ができないと最初から決めつけず、補助をもらいながら成功体験が増えるように努力しましょう。
- ・難しい技もあることから、安全に留意して真剣に取り組みましょう。また、補助も大切になります。気をゆるめずに声をかけあって行うようにしましょう。

○球技（ネット型、ベースボール型、ゴール型）

- ・個人でなく、チームでの活動になります。自分だけ楽しければ良いのではなく、周りとの協力して授業をつくっていきましょう。また、チームの作戦立てをしっかりと行い、めあてを持って臨みましょう。
- ・授業の雰囲気悪くするような言葉かけ（マイナス要因）は避けましょう。仲間の意欲を削ぐことに繋がってしまいます。

○全体を通して・・・

- ・グループ活動（学び合い）が体育の柱になります。自分だけが上達すれば良いのではなく、仲間とともに技能を高められる活動をしていきましょう。
- ・集合時間、体育のルールをしっかり守り、意欲的に活動できるようにしましょう。

【知識・技能】

- ・各運動の特性（ルール・行い方・成り立ちなど）を理解しましょう。
- ・運動に関連して高まる体力と、健康・安全の留意点について理解しましょう。
- ・運動の特性にあった基本的な技能を身につけましょう。
- ・健康・安全な生活を送るための知識を身につけましょう。

【思考・判断・表現】

- ・授業を振り返り、学習カードにまとめましょう。
- ・自己の課題を発見し、解決方法を考え、運動の取り組み方を工夫しましょう。
- ・反省や感想から次回のめあてを立てられるようにしましょう。
- ・バディ活動を充実させ、考えたことを仲間に伝えましょう。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・健康・安全に注意して、学習に積極的に取り組みましょう。
- ・仲間と互いに協力し、自己の役割を果たしましょう。
- ・フェアなプレイを大切にし、ルールやマナーを守りましょう。
- ・一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしましょう。
- ・バディ活動を充実させ、助け合ったり、教え合ったりしましょう。

技術科 学習の手引き《全学年》

1 目標（学習のねらいや教科の特徴）

材料と加工に関する技術・エネルギー変換に関する技術・生物育成に関する技術・情報に関する技術の4つの領域に対して、理論と実践のもとに基礎・基本的な技術の習得および知識としての定着を図る。さらに、現在または将来の社会や環境を見据え、習得したことを活用する能力と態度を身に着ける。

2 教科書、副教材、持ちもの

教科書	新しい技術・家庭科 技術分野（東京書籍）
副教材	1年：本立ての製作(材料と加工の技術)、豆苗の栽培（生物育成の技術） 2年：ウディーキューブラジオの製作(エネルギー変換の技術) 3年：コロックルの製作とプログラム制御(情報の技術)
持ち物	1・2・3年：ファイル（ノートは使用しません） ※各学年、作業で必要なものについては、後日連絡します。

3 年間の学習項目

- 1年：A 材料と加工の技術 B 生物育成の技術・・・前期に授業を実施します。
2年：C エネルギー変換の技術・・・・・・・・・・後期に授業を実施します。
3年：D 情報の技術・・・・・・・・・・通年、隔週で授業を実施します。

4 評価の観点と主な評価方法

	観点の内容	評価の方法
1 観点 知識・技能	生活や社会について基礎的な事柄を理解するとともに、それらに係る技能を身につけている。	定期テスト 作品の完成度 ポートフォリオの記述内容 など
2 観点 思考・判断 表現	生活や社会の中から問題を見つけて課題を設定し、学習した内容を活用して解決する力を身につけている。	ワークシートの記載内容 グループ活動等の行動観察 ポートフォリオの記述内容 など
3 観点 主体的に 学習に 取り組む態度	よりよい生活や社会の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりしている。	ワークシートの記載内容 グループ活動等の行動観察 ポートフォリオの記述内容 など

5 授業で心がけてほしいこと

- 授業準備（時間・服装・持ち物）を確実に整える。
- 説明や見本実践に集中する。
- 安全に十分注意して作業する。
- 道具や機械を正しく・丁寧に使用する。
- 友達と助け合いながら作業する。
- 学習環境の整理整頓に努める。

習ったことを、どうやって実生活に生かすかを考え、実践しましょう。

家庭科 学習の手引き 《全学年》

1 目標（学習のねらいや教科の特徴）

家族・家庭、衣食住、消費生活に関する実践的・体験的学習活動を通して、生活の自立に必要な基礎的な・基本的な知識及び技術を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、これからの生活を展望して、課題をもって生活をよりよくしようと努力する。

2 教科書、副教材、持ちもの

教科書	1・2年：新編 新しい技術・家庭 家庭分野（東京書籍） 3年：技術・家庭科 家庭分野（開隆堂）
副教材	1年：基礎縫いコンビニバッグ800円、透明ボビン22円 2年：調理実習費500円 3年：なし
持ち物	共通：教科書 B5のノート（2・3年は昨年度のものでも可） 筆記用具 のり PC 1年：裁縫セット 2年：エプロン・三角巾・マスク・タオル3枚（食器用、台ふき用、ハンカチ）

3 年間の学習項目

1年：後期	2年：前期	3年：通年、技術と隔週
1編 未来につながる家庭分野 ・ガイダンス ・私たちの家族と家庭生活	2編 ・私たちの食生活	A 家族・家庭生活 ・保育分野 ・高齢者との関わり
3編 私たちの衣生活	(6編 私たちの成長と家族・地域) (3章 持続可能な家庭・地域生活	C 消費生活・環境
4編 私たちの住生活	高齢者との関わり)	

4 評価の観点と主な評価方法

	観点の内容	評価の方法
1観点 知識・技能	生活や社会について基礎的な事柄を理解するとともに、それらに係る技能を身につけている。	定期テスト 作品の完成度 ポートフォリオの記述内容 など
2観点 思考・判断 表現	生活や社会の中から問題を見つけて課題を設定し、学習した内容を活用して解決する力を身につけている。	定期テスト ポートフォリオの記述内容 など
3観点 主体的に 学習に 取り組む態度	よりよい生活や社会の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりしている。	ノートの記載内容 ポートフォリオの記述内容 グループ活動等の行動観察 など

5 先生からのアドバイス

★★習ったことを、どうやって実生活に生かすかを考え、実践しよう★★

- ・家庭科の目的は、「自分の生活をより豊かにする」ということです。
そのためには、実際に生活に生かしていかないと意味がありません。
- ・習ったことを思い出して、家で取り組んでみてください。

授業・学習のポイント

① あいさつ・返事は元気よく

- ・あいさつと返事は人と関わる時の基本です。しっかりと行ってください。

② 忘れ物をしない

- ・忘れ物をしたら授業中何もできず、自分が困ってしまいます。
- ・学校で保管している教科なので、しっかり保管し、忘れずに準備しましょう。
※学習するために持ち帰った際は忘れないよう必ず確認しましょう。

③ 実習を行う時は、

話をしっかり聞く・わからないことは必ず質問・集中

- ・時間内に丁寧に作り終わるために、重要です。しっかり取り組みましょう。

④ 定期テストは期末テストのみ

- ・言葉だけを覚えるのではなく、言葉の意味や関係することをしっかり理解しましょう。
- ・ノートや教科書を眺めているだけでは、テスト勉強になっていません。後悔しないように頑張ってください。

英語の学習【2年】

1 目標

- ・ 基本的な英語を聞き取り、話すことができる。
- ・ 書かれている事柄を理解し、正しく発音したり、音読したりできる。
- ・ 自分の考えを簡単にまとめて書いたり、発表したりできる。

2 教科書・副教材・持ち物

教科書名	NEW HORIZON2（東京書籍）
授業の持ち物	教科書、ノート、A4 ファイル、ワークブック

3 年間の学習目標

Unit0	動詞の過去形を使ってまとまりのある文章を作ることができる。
Unit1	will や be going to を使って休暇や週末の予定について、たずねたり伝えたりすることができる。
Real Life English 1	機内放送を聞き、必要な情報を聞き取ることができる
Unit 2	接続詞を用いて好きな食べ物やその理由について、紹介文を書くことができる。
Real Life English 2	場面や相手に応じて、ていねいに許可を求めたり、依頼したりすることができる。
Unit 3	不定詞を使って自分が体験したことや学んだことなどについて、たずねたり伝えたりすることができる。
Real Life English 3	インタビューを聞き、質問の内容や答えを聞き取ることができる。
Stage Activity 1	好きなことや得意なことについて話し合い、自分に合うと思う仕事について書くことができる。
Let's Read 1	説明文を読み、時計についての歴史を読み取ったり、説明したりすることができる。
Unit 4	have to や must を使って習慣やマナーについて、たずねたり伝えたりすることができる。
Real Life English 4	動名詞を用いてお世話になった人に、手紙で感謝の気持ちを伝えることができる。
Unit 5	疑問詞+to を使い、身近なもの・ことについて、使い方ややり方を説明したり、自分の考えを述べたりすることができる。
Real Life English 5	展示・販売会で流れるアナウンスやスタッフの案内を聞き、イベントなどの情報を聞き取ることができる。
Unit 6	身近なことについて、特徴を比較しながら説明することができる。
Real Life English 6	状況や相手の要望に応じて、乗り物での行き方を伝えることができる。
Stage Activity 2	自分の学校や学校生活について、具体例をまじえながら説明することができる。
Let's Read 2	物語を読み、場面や登場人物の心情の変化を読み取ったり、気持ちをこめて音読したりすることができる。
Unit7	受け身表現を使って各地の世界遺産を紹介することができる。
Real Life English 7	自分の好みや要望を伝えながら買い物をするすることができる。
Stage Activity 3	自分の町のおすすめの場所について書き、相手にその場所の特徴やよい点を伝えることができる。
Let's Read 3	人物の伝記を読んで、時系列を整理しながら内容を理解することができる。

4 評価の観点と主な評価方法

	評価の観点	主な評価物
観点1	英語のきまりや特徴を理解し、それらを活用できる技能を身につけている。	定期テスト、ワークシートの記述、スピーチ、会話活動、小テストなど
観点2	目的や場面に応じて身近な内容を伝えあったり理解することができる。	定期テスト、スピーチ、表現活動・会話活動、英作文、リスニングなど
観点3	主体的にコミュニケーションを図り、英語を運用する能力を高めようとしている。	スピーチ、表現活動・会話活動、英作文、リスニング、自己評価カードの記述、ノート記述など

先生からのアドバイス ～英語の上達には、「繰り返し学習」が大切です！

【授業の取り組み】

- ・忘れ物をせずに、確実に授業の準備をしましょう。
- ・3分前に着席をし、落ち着いた状態で授業を始めましょう。
- ・先生や放送される英語をよく聞いて大きな声で発音し、正しい発音を身に付けましょう。発音が身につかないと、単語は覚えられません。
- ・進んで発表し、授業に積極的に取り組みましょう。
- ・ペアやグループ学習に積極的に取り組みましょう。
- ・ノート整理をしっかり行い、プリントはファイルに綴じて保存しましょう。
- ・宿題や提出物は期限を守って提出しましょう。

【家庭学習】

- ・単語や基本文は何度も書いて練習し、覚えましょう。
- ・教科書本文を何度も音読しましょう。できれば暗記し、さらに書けるようにしましょう。
- ・授業の進度に合わせて、e-ライブラリや参考書を使って問題に取り組みましょう。
- ・聞き取りの力を付けるために、語学番組を視聴しましょう。
- ・英語の歌や映画など海外の文化に触れて楽しみましょう。
- ・英語検定に挑戦することも一つの勉強法です。(実施日は6/1、10/5、1/25)
詳細はホームページで確認してください。なお、6/1実施の試験に関しては申し込み期間が5/7までとなっています。

【テスト勉強】

- ・単語・連語の意味・発音・綴りを確実に覚えましょう。
- ・教科書本文の内容や各單元ごとの文法事項を理解しましょう。
- ・教科書本文を読み、文の訳や内容など、自分の理解度を確認しましょう。
- ・プリント類を見直しましょう。